

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	13-014	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Binge drinking among adolescents in Russia: prevalence, risk and protective factors. ロシア人の若者における深酒：分布、リスク、予防要因		
<b>執筆者</b>		
Stickley A, Koyanagi A, Kuposov R, McKee M, Roberts B, Murphy A, Ruchkin V.		
<b>掲載誌</b>		
Addict Behav. 2013 Apr;38(4):1988-95. doi: 10.1016/j.addbeh.2012.12.009. Epub 2012 Dec 21.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
深酒、予防、リスク、ロシア		23384452
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> ロシアにおいてアルコール乱用が若者の健康にますます悪影響を与えているというエビデンスがあるにもかかわらず、近年この事実についての研究はほとんどされていない。Arkhangelsk Social and Health Assessment2003 の対象者、2,112 名の子供たちのデータを用いて、本研究はどの要因が若者の深酒のリスクあるいは予防要因となるかを、家庭環境、飲酒環境、逸脱行動と名付けた 3 つの領域内で検討した。</p> <p><b>結果：</b> 比較的中等度な深酒をする青少年は、アルコールの入手が容易にでき、深酒のリスクに気づかず、アルコールを摂取する仲間を有することで深酒のリスクが増加し、学校をずる休みして遊ぶ、喫煙、マリファナ使用の行動を取る。一方、両親の愛情は少女にとって深酒の予防要因であった。</p> <p><b>結論：</b> リスクと予防要因が家庭環境、飲酒環境、逸脱行動の全てで存在するという結果は、深酒に対する若者を対象とした介入は、上記の全ての領域のリスク行動に対して一斉に焦点を当てる必要があるかもしれないことを示した一方、同時に社会政策によってロシアの若者のアルコール使用をよりいっそう制限するべきである。</p>		